

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
分担研究報告書

先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する
医療および移行期医療支援に関する研究

研究分担者 鷓木則之 地方独立行政法人大阪市民病院機構
大阪市立総合医療センター 眼科 部長

研究要旨

先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する移行期医療のガイドブックを作成し、遵守状況とアウトカムの評価を行い、診療マニュアルの普及・啓発と質の向上を進めつつ、遵守状況とアウトカムを評価する。また、データベースの登録を進め、その解析結果に基づいて診断基準、診療ガイドライン等を改訂する。本年度は更に、COVID-19 感染下の患者の課題と問題点を解明し、対策を提言する。

A. 研究目的

COVID-19感染蔓延下（コロナ禍）で、視覚聴覚二重障害者が直面する問題点を集約し、その解決策を提言すること。

という配慮や、このような理由での移動に公共サービスを受けられないことなどが挙げられる。必要不可欠・必要最低限の移動が滞りなく行えるようにすることに関心が向いていたようである。

B. 研究方法

コロナ禍で直面する問題点（特に移動に関すること）を、患者さんにアンケートし集計。何が特に問題となっているかを上位から解析すること。

（倫理面への配慮）

無記名方式でアンケート結果から個人を特定することはできない。

E. 結論

コロナ禍での移動の問題点は、生活に必要不可欠なものよりも、レクリエーションの移動が、心理的側面や公共サービス面の影響で制限されていることの方が大きかった。精神面の健康を保つためにも、必要不可欠な目的の移動だけに限らず、レクリエーション目的の移動のために向けられたサービスの拡充は必要と思われる。

C. 研究結果

移動面について困ったことに関して、病院受診や生活必需品の買い物などより、最上位に気分転換・娯楽のための移動が減少したことが挙げられており、いわゆる不要不急に分類されるものの方が上位であった。

F. 研究発表

1. 論文発表
該当なし
2. 学会発表
該当なし

D. 考察

研究結果より、コロナ禍において、生活に必要不可欠な移動などに困っているというより、実際は、レクリエーションに該当する移動に困っていることがわかった。理由は、自身の感染への懸念やまた介護者を感染させたら申し訳ない

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他